

団体名	一般社団法人 オンラインボッチャ普及協会	事業名	オンラインボッチャ普及活動事業
-----	----------------------	-----	-----------------

実施内容

- 体験会
地域の多様な方々に、オンラインボッチャを体験頂き、楽しさ、コミュニケーションツールとしての可能性を体感、認知して頂く。
- 機材改良/製作
現在の機材(ロボットランプ)を「思ったようにボールが投球されない」「またやりたい」のご要望に応えるべく改良と、施設への配備による体験会の定期開催/自主開催の推進の為に追加製作を実施。
- オンラインボッチャ共創
川崎市内の高校生他との共創活動によりオンラインボッチャ用ランプの開発、普及活動についての施策を検討する

実施結果

- 体験会
11回の体験会と初の展示・プレゼンを実施。なかはらSDG'sまつりでは、買い物にいられたお客様や、通りを通行される方々他に興味を持って頂け、体験のみならず、見学・応援も頂けた。また、ウェルフェアイノベーションフォーラムでは、施設関係・教員委員会関係者の方々に体験・認知頂け、来年度でのデモや体験会の打診も頂けた。
- 機材改良/製作
手作りのプロトタイプであったロボットランプは、3Dプリンタ導入により、試作改良が進み、安定動作の実現と、複数台の製作も可能となり、計画通り5台(大2台小3台)の改良機の製作が完了。
- オンラインボッチャ共創
川崎総合科学高校の生徒さん達は、共創活動3年目で制作活動、ボランティア活動を楽しんでくれました。メンバーが放送部へ所属しており、ランプの動作や、ボランティア活動の様子の動画でNHKコンクールへ参加予定。

写真



課題と展望

川崎市を中心に活動を始めて5年目で、リアルイベントでの体験会での認知度向上に努めてきたが、「オンライン」を活用した体験の場の提供には及んでいない。本年は、ランプの改良、台数増を図ることが出来、また、ひきこもり、不登校当事者へオンラインの居場所提供を行っている団体との縁が出来た。これらを生かし、来年度はイベントでの認知度向上に加え、「オンライン体験会」を開催し、イベント参加困難方々にも体験頂き、オンライン上に川崎のコミュニティをつくり、インクルーシブな共生社会実現に寄与する。

団体名	たま結び	事業名	キッズ YouTuber が多摩区を紹介！ 子どもたちが発見する 街たんけん project！
-----	------	-----	--

実施内容	実施結果
------	------

3日間の講座と2日のフィールドワークの4日間の連続動画制作ワークショップを行い、市内店舗を子どもたちが取材を通して職業体験やまちを知る機会づくりを行いました。

制作した動画は YouTube でアップするとともに地元のまつりや主催イベントで放映することで地域の方に地元について知る機会を提供しました。

4日程のワークショップを開催 参加者延べ人数 55 名

1グループ1店舗 計3店舗の取材を実施。動画として公開。

上映会 緑化センターまつり 約 80 名

たまむすびーず上映会 約 75 名

YouTube 再生総数 564 回(3 動画のみ) チャンネル登録数 93 名

ワークショップに参加者 14 名にアンケートを実施。5段階評価の「5.とても楽しかった」「4.楽しかった」が 100%を占め、子どもたち自身楽しんで参加することが出来ました。保護者アンケートでは「他校・多学年交流」が出来たことが良かったことと回答がありました。また講師による「専門家のはなしを聞くことができた」や直接取材することによって「多摩区のお店(や歴史)を知ることができた」と地域にかかわるキッカケづくりをすることができました。また 11 月・12 月と実際に地域の祭りや主催イベントで上映会を実施したことにより、普段視聴することのない区長さんやシニア層、他地域の方も多摩区のコンテンツとして発信することが出来ました。

写真	課題と展望
----	-------



取材中の様子① (職員さんと)



取材中の様子②(店主と)



上映会の様子

＜たまむすびーず
ちゃんねるはこちら＞



【課題】

- ・昨年度からのリピート参加者が大半を占めていたため、前回と重複する講座部分に関して「簡単すぎる」と感じた子どももいました。また低学年より外部講師の講座内容が難しすぎたという意見も寄せられました。
- ⇒講座プログラムの見直し/外部講師との打ち合わせ強化
- ・動画撮影・編集と技術者が各グループに必要なため、事業の拡大が難しいと感じまし
- ⇒ボランティアの募集や講座の見直しが必要
- ・参加者のリーチが困難
- ⇒学校ヘラシを配布が難いため、口コミでの参加になってしまい、新規参加者が入らない

【展望】 動画制作に捉われず取材体験や職業見学・体験にしてもよいのではと感じています。

団体名	グリーンケア&ライフグロウス川崎	事業名	グリーンケアによる心身生き生き明日への一歩事業
-----	------------------	-----	-------------------------

実施内容	実施結果
<p>1. グリーフを抱える方に</p> <p>1) わかちあいの会: 毎月開催する会</p> <p>2) ワークショップ「雲もなか」「切り絵」: 亡くなった方を想い心の整理</p> <p>2. グリーフを知ってもらうために</p> <p>1) ミニコンサート</p> <p>クラシック演奏会とグリーフについての紹介</p> <p>2) 落語会 & グリーフとは</p> <p>落語家さんにグリーフにも触れた演目を披露 続けて事例紹介</p>	<p>1. グリーフを抱える方に</p> <p>わかちあいの会において、話を聴くだけでなく、亡くなった方を想いながらの作業を取り入れた。心の整理をしながら相互に話ってもらうことで、複数の他人がいる中でも落ち着いて話しやすい環境がつかれ、よい雰囲気の中かで実施できた。今後も取り入れたいと考えている。</p> <p>2. グリーフを知ってもらうために</p> <p>各1回ずつ開催した。ミニコンサートや落語会の中でグリーフを紹介したが、集客時も誘いやすく、また、重苦しさもやわらぎやりやすかった。</p>

写真	課題と展望
<p>● 分かち合いの会</p>  <p>● 話す場と話すまでの準備</p>   <p>● “グリーフ”を知ってもらうために</p>  	<p>グリーフを知る、またそれを理解することは、普通に過ごす日常生活においてなかなか知る機会が無い。そこで、イベントとの組み合わせで紹介する機会をつくった。</p> <p>音楽や落語は、癒やしや笑いといったグリーフを和らげることにつながるものでもあり、グリーフを抱える当事者でも参加しやすいものであったと思われ予想以上に良いイベントとして実施できたと考えている。</p> <p>課題としては、参加者もあまり多くない方が参加しやすく、また開催側も実施しやすいと思われ回数を多くが望ましい感じだが、演奏家の方、落語家さんへの交通費・謝礼がかかる。今回はグリーフに理解いただける方でご配慮いただいた中で実施できたがなかなか回数多くは開催できないとも思われた。</p>

団体名	川崎市で木育を広め隊	事業名	木育紙芝居を市内各地で上演しよう
-----	------------	-----	------------------

実施内容	実施結果
------	------

昨年作成した木育紙芝居を用いて「木育」を広めるため市内 3 か所で木育紙芝居とおもちゃの広場を行った。10月12日は中原区内かわさきSDGsパートナーまつり出店、10月20日は多摩区内都市緑化かわさきフェアの生田緑地会場、12月22日は幸区で自主イベント「みんなで楽しむ木育の日inかわさき」を開催した。また実際に「木育紙芝居」を上演してみて観客の反応や制作に協力していただいた大谷俊行氏、紙しばいやもっちいと意見交換を行い、紙芝居の文章のブラッシュアップと19場面から15場面に内容をコンパクトにしたショートバージョンを作成した。

・川崎市産業振興会館で当団体主催のイベントを開催し26組100名近い参加があった。
 ・12/22の主催イベントでは「NPO 法人幸区盛り上げ隊」とコラボレーションし、広報や当日の運営に多大なご協力をいただいた。10/12のかわさきSDGsパートナーまつりは昨年のイベント立ち上げから代表が参加しており、今年もNECプロボノ倶楽部と連携を取り36組の参加があった。10/20の都市緑化かわさきフェア生田緑地会場では普段の活動地域外であったが、近隣の公共施設、幼稚園、保育園などにチラシの配布を依頼し、多数の参加があった。
 アンケート実施したところ「子ども目線に立って楽しく遊ぶことの大切さを感じることができた」の項目は5段階評価で「とてもそう思う」「そう思う」合わせて93%「木育や環境保全について関心を持つきっかけとなった」の項目は5段階評価で「とてもそう思う」「そう思う」合わせて95%と高評価であった。
 ・公式LINE141名・instagram1269名・Facebook456名と登録者数を増やすことが出来た。

写真	課題と展望
----	-------



「木育」を伝えるツールとして「木育紙芝居」を今後も活用していく上でさらに観客へ「伝わる・響くツール」となるよう木育クイズ、絵本化などの展開を検討している。川崎市内の里山保全団体と連携し川崎市産の木材を活用したワークショップ開発することで市内の団体・企業と協力し、新たな価値を持った持続可能な活動・事業を地域社会に根付かせていきたい。より安心・信頼して参画できる団体に成長すべく、公共との連携やネットワークの構築を目指す。公共的なイベント出展を通して自治体・企業・教育機関などとも繋がる他、市内の子育て支援の中心拠点「保育・子育て総合支援センター」へ木のおもちゃと木育紙芝居を寄付することで、木育の重要性を教育カリキュラムや地域活動に取り入れて頂き、イベント開催や貸出しの協力を期待したいと考えている。
 私たちが今まで開催してきた「おもちゃの広場」について、いつでもある・いつでも行ける安心感が大切だと考え、常設の場作りを目指す。そのファーストステップとして、民間の会場に協力頂いて定期的に「木育おもちゃの広場」を開催する。加えて学びの機会も提供することで、「学びと癒しの拠点」に育てたい。参加者がリピーターとなって関係性が深まることで、それぞれのできること・やりたいこと・キャリアを活かして発揮する場として、一緒に活かしていける仲間作りにも繋げたい。

2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	子育てママの学びサロンいちご	事業名	子育てママの学びサロンいちご
-----	----------------	-----	----------------

実施内容	実施結果
------	------

<p>子育て中の保護者に向けた、学びとつながりの場の提供を目的とし、年間を通して講座やお話会、専門家をお招きしての大規模イベントを開催。</p> <p>■通常講座 10 回、お話会 1 回(中原市民館 会議室) テーマ:親子のコミュニケーション法、親子ダンス、美容講座、パートナーシップ、性教育など</p> <p>■子育ての専門家久田ミカ氏講演 大規模イベント 1 回(中原市民館 多目的ホール) テーマ:ほめすぎ危険！子どもが伸びるほめ方・聞き方</p>	<p>参加者人数は以下の通りとなった。</p> <p>当初の目標である 200 名に届かなかったものの、大規模イベントの開催により 2023 年度よりも多くの方にご参加いただくことができ、認知度はアップできた。</p> <p>通常講座 95 名、大規模イベント 64 名 /計 159 名</p> <p>また、参加者アンケートでも大変好評をいただいた。</p> <p>1.「子育てに役立つ内容だった」 5 段階評価(数字が多き程良い)「4」以上が約 98%</p> <p>2.「他の参加者との交流について」話せた 68% /少し話せた 32%</p> <p>100%の方が、他の参加者と何かしらの交流をもてたという結果となった。</p>
--	--

写真	課題と展望
----	-------

<p>大型イベント</p> 	<p>2024 年度から参加費を徴収したが、前年度の参加者の申し込みが少なく、当初は集客に苦戦した。有料ということで、参加者が内容を吟味して参加されるため、興味を惹くテーマとコンテンツ作りを行っていく。</p> <p>また、2025 年度は、働いている保護者が参加しやすいよう土日にも開催。</p> <p>多くの方に参加して頂くことで、子育てで孤立せず悩みをシェアし合える場づくりを提供できるよう推進していく。</p>
<p>通常講座</p> 	

団体名	ことばすけっと	事業名	ココで話そう ことばすけっと
-----	---------	-----	----------------

実施内容

幸区で多世代の居場所として開かれているコミュニティカフェ「メロディーココ」を主な会場に、互いの思いを聞き合う場「ココで話そう ことばすけっと」を定期開催する。出入り自由でカフェメニューのドリンクを飲みながら話す「フリーオープン」の他、企画ものとして、落語を聞いた後に語り合う「落語茶話会」、絵本を読んで感じたことを粘土で表し話す「こねこねブッククラブ」、戦前戦後から多様なルーツを持つ方々が暮らす幸区戸手エリアを知り「隣人と生きること」について考えるフィールドワークを実施する。また、そうした対話から共助へ繋げること及び、自主財源の確保を目指して「シェア本棚事業」を試験的に実践する。本棚の購入・設置、シェア本棚オーナーの募集を開始すると共に、事業を本格実施するにあたっての課題や運営方法を整備する。また、シェア本棚の取組の周知や、本棚オーナーに申し込んだ方との交流を兼ねて「本とワインのつどい」を開く。

実施結果

フリーオープン(計6回)、落語茶話会(ゲスト:アマチュア落語家 みじん子さん)、こねこねブッククラブ(企画・ゲスト:THE INDEPENDENT SARDINE タケダノゾムさん)、「聞いて、歩いて、話して考える隣人と生きるって? 幸区戸手フィールドワーク」(ゲスト:川崎戸手教会 孫裕久さん)を実施し、合計78名が参加した。参加者アンケートの回答のうち、他者への気づきに関する設問への回答率は92%、自分自身に対しての気づきに関する設問への回答率は95%で、自由記述の各項目に各々の思いが言語化された。シェア本棚事業においては、本棚の設置と本棚オーナーの募集をスタートし、2名のオーナー申込と3件の問合せがあった。本棚オーナー募集においては、ことばすけっとのプログラム内で参加者と共にシェア本棚のあり方を考えるワークを実施し、コンセプトや発信内容に反映させた。「本とワインのつどい」では、オーナー申込をした方他、本や当事業に関心を寄せる方が集い、本を介した交流をすると共にシェア本棚の取組やコンセプト等を周知することができた。

写真



課題と展望

対話の場として定期開催している「ココで話そう ことばすけっと」は、全体の参加者のうちリピート率が77%と、気持ちを吐露できる場として認識されつつある一方で、新たな層へのアプローチに課題を感じているため、発信力を高めると共に、普段の活動拠点と異なる場所での実施を計画する。あわせて、リピーターの方や初めて参加する方を含め、より多様なバックグラウンドを持つ方が安心して参加できるように、属性となるべく切り離して自分自身の話ができる環境づくりをする。

シェア本棚事業においては、今年度設定した運用ルールを基に申込のあった本棚オーナーと本の設置などを進めていく。あわせて、対話の場の定期開催を継続すると共にシェア本棚の周知をすることで、今後さらに、コンセプトに共感したうえで本棚オーナーへの申込みがあることを期待する。また、本棚オーナーの希望に応じて、会場の店番や自主企画を実施することで、当事業や活動拠点である多世代の居場所「メロディーココ」の運営に関わる人を増やし、共助の実践をしていく。

2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	ゆめっこクラブ	事業名	親子で作ろう手作りおやつ
-----	---------	-----	--------------

実施内容

乳幼児を持つ親子同志の仲間づくりと、手作りのおやつをお伝えしたいとの願いから、年間5回の講習会を実施した。
料理の待ち時間などの合間に、ワンポイント講習、乳幼児でもできる簡単な工作をした。
講習は一人200円とした。

実施結果

家庭にある材料、栄養等も考えた内容で、幼児を持つ家庭でできるように研究をし、講習した。どれも好評で、家で作りたいとの声もあり、また、同じテーブルの人と仲良くなっていく様子が見られた。
しかし、一人200円が影響したのか、昨年度と比較して集客が悪かった。
昨年度ご指摘のあったように、SNSでの取り組みをした。他にチラシ、口コミ、武蔵小杉エリアマンションのサイネージを利用し、宣伝に努めた。

写真



課題と展望

目的は、幼児を持つお母さんたちが孤独感を感じない様な仲間づくりと、簡単で安全なおやつ講習だったが、どちらも達成できたと思う。実際に親子と触れ合って講習し、受講生同士が仲良くなっていく様を見、この講習会を開いた甲斐を感じられた。しかし、受講生が昨年と比較しても集まらなくなった。昨年のはべ79人参加したが今年は69人の参加だった。参加した受講生は喜んでくれるが、新規の人が少ないのは受講料の値上げが原因かとも思う。私たちも、この事業を続けたいと願い、どうしたら受講料だけでやっていけるかを模索した。今後、講師はお断りし、同じ内容を講習してリハーサル(これは幼児向きなので、安全を確認するため大切だった)を減らすとか考えたが、交通費、市民館調理室費用などを考えると、厳しい。今後はおやつ作りに主眼を置き、自主講座として年に1~2度でも繋げていきたい。

2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	おもしろ科学かわさき	事業名	小中学生向けサイエンスマイド醸成ための体験提供
-----	------------	-----	-------------------------

実施内容

本事業は、小中学生を対象として、「科学実験」や「手作り工作」などを体験する機会を提供することにより、科学への興味を醸成することを目的としている。川崎市は、先端技術産業をはじめ各種ベンチャー企業の多い恵まれた地域にありながら、夏休みや春休みに科学体験と接する機会があっても、日常的に各地域で科学的体験ができる場所(拠点)が不足している。このままでは、子供たちが受験勉強に明け暮れる無味簡素な生活を送ることになってしまう。そこで、私達は、子供達がサイエンスを実際に見て、触れて、肌で感じ取る体験の場を提供するための科学講座を計画し実施している。具体的な活動としては、2年前から中原区を中心として小学生向けの科学体験塾を開催し始めた。本年度は、中原区、川崎区、高津区に於いて年間7回の体験講座を実施した。

実施結果

本年度は、高学年向けの科学体験塾を、市民活動センターにおいて3回、サイエンスショーを子供文化センターで2回、低学年向けの簡単工作をわくわくプラザに於いて2回実施した。

気結果として、延べ参加児童数153名となり、多くの児童の参加を得ることが出来た。

実施した結果を、アンケートの内容により評価すると次のような結果であった。

- ・講座の内容の理解 : 良く分かった : 57%、普通 : 33%、難しい : 10%
- ・講座の内容に満足したか : 満足した : 81%、普通 : 9%、不満足 : 10%
- ・今後参加したいか : 参加したい : 90%、どちらでもない : 10%

ほとんどの参加者が内容に満足しており、継続的な参加を希望している。

写真

2024/7/28 ヨット作成講座の状況



2024/10/13 バギーカー作成講座の状況



2024/11/6 簡単工作の状況



2024/12/14 ホバークラフト作成の状況



課題と展望

本年度の活動の経験により、着実に体験講座を実施し、対象エリアを拡大していくためのアプローチの方法は体得出来たので、次年度以降も継続して対象エリアを拡大し内容を充実させる活動を続けていきたい。ただ、活動を継続して実施していく際の課題として、学校へのチラシ配布が禁止されるなど、参加者集めが難しい状況が発生している。この対策として、電子メールを使った講座案内の実施等を試行し始めている。年々、高学年の参加者を集めることが困難になっていく中で、講座への参加者を着実に集める方法をさらに模索していく必要がある。

2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名 子育て支援グループ「いいんだよ」	事業名 実家みたいに子育てをシェアするいいだよひろば
-----------------------------	-----------------------------------

実施内容	実施結果
<p>【子育てひろば】</p> <p>□内容:実家みたいに子育てをシェアするひろば「いいんだよひろば」として、週1回の頻度で毎月開催。利用料・・・1時間 500円</p> <p>□場所:コミュニティプラットフォーム縁側(川崎市中原区木月3-9-10 1階)</p> <p>【子育てセミナー】</p> <p>□内容:「離乳食」・「抱っこ」・「感染症対策」・「ベビーマッサージ」・「歯磨き」・「キャリア」を開催。対面で開催し、各回 10組の参加者とした。</p> <p>□実施回数</p> <p>年 6回(10月、11月、12月、1月、2月、3月に実施)</p>	<p>週 1回、年間約 48回のひろば開催と、年 6回の子育てセミナーを通して、利用者数が増加した(ひろば 332組、セミナー50組)。母親同士の横のつながり、困ったときに頼れる人がいる感覚の醸成がある程度できたと思われる。</p> <p>○利用者アンケート</p> <p>「気軽に連絡できるママ友がいる」55%</p> <p>「困ったときに頼れる人がいる」70%</p> <p>「いいだよひろばがあって良かった」90%</p> <p>○利用人数</p> <p>ひろば:平均 6組(実施後)</p> <p>セミナー:平均 8組</p>

写真	課題と展望
	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者アンケートからも「ひろばの回数を増やして欲しい」「いろんな場所で開催して欲しい」という声が上がった。子育てひろばの開催日数を増やし、乳幼児親子が気軽に遊びに行けて相談できる居場所事業を軌道に乗せていきたい。 <p><目標利用者数/回(開催頻度)></p> <p>2024年1月末・・・3, 4組/回(週1)</p> <p>2025年3月末・・・ 6組/回(週1) * 現在</p> <p>2026年3月末・・・ 8組/回(月5回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横のつながりを強めるためのおしゃべり会を開始する。 ・利用者を増やすため、今年度人気のあったイベントを毎月開催する。

団体名	FTI Consulting	事業名	生活に役立つ金融・経済学
-----	----------------	-----	--------------

実施内容

私たちは「大学の知識を一般市民に伝えることによる経済・金融リテラシー向上」をコンセプトに活動しています。しかし、現状では川崎市内の大学で経済・金融の知識に触れる機会が不足しています。多くの人が日常生活で必要とする貯蓄や資産運用などの金融商品を理解し、適切に判断するためには、経済・金融の基礎知識を身につける必要があります。私たちの活動を通じて、川崎市民が経済・金融に関する基礎力を養い、情報を適切に判断できるようサポートしています。

実施結果

- ・勉強会を実施：
全6回の勉強会を開催し好評を頂きました。
- ・自主勉強会の実施：
参加者がテーマを持ち寄り、発表を行いました。
- ・他団体様と共同開催の実施：
勉強会を共同開催という形で実施しました。

写真



課題と展望

- ・コア事業の強化と資金面での自立化：
外部講師に依存せず、勉強会を含む事業を自立化する。
今年度は自主勉強会を実施しました。
参加者がテーマを持ち寄り、発表を行いました。
次年度は外部講師に頼らない形として、来年度はこの形を軸に活動して、内容面の担保ができるか確認する。
- ・今年度については、他団体様と共同開催で行いました。
次年度も共同開催で行う予定です。

2024年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	カワサキ国際ダンスアクション実行委員会	事業名	カワサキ国際ダンスフェスティバル 2024
-----	---------------------	-----	-----------------------

実施内容	実施結果
<p>川崎市及び近隣の住民を対象とした国際的なダンスと音楽のフェスティバル「カワサキ国際ダンスフェスティバル 2024」を開催した。</p> <p>出演者は、海外在住及び日本国内で活躍中の一流のプロフェッショナルダンサー、ミュージシャン(日本人、外国人)などを招き、パフォーマンスを開催。昼間と夜間の二部構成とし、昼の部は、ダンス教室の生徒や障がいのある若者たちの出演と講師によるミニワークショップを実施。</p>	<p>昼の部の生徒さんたちによるパフォーマンスのあとに、講師によるミニワークショップ(クラシックバレエ、フラ、能)を行い、それぞれの踊りの解説と実際に来場者に動いてもらうことで、観客が一体となり、楽しんでもらえた。</p> <p>夜の部は、プロフェッショナルの出演者による多彩なダンスが披露されて、アンケートでは、8割以上の方が「とても良かった」「良かった」という回答だった。また、コメントで、「これだけ多彩なダンスを一堂に見れて入場料が安いと思う」「これは、ぜひ続けていただきたい」「ほかの世界のダンスも見たくなった」などの意見もいただいた。</p> <p>ミニワークショップ、プロのパフォーマンスを通して、来場者からは感動したとの声を多数いただいた。</p>

写真	課題と展望
 <p>能(角当直隆氏)</p>  <p>フラメンコ(福原恵理)</p>  <p>フラ ミニワークショップ</p>  <p>つながり隊</p> 	<p>現在、来年度の申請をしているが、2025年度も、多岐にわたるアーティストに出演を打診中である。海外在住のダンサーの場合、時間的に数ヶ月以上前から出演打診をしなければならないが、公演の時期などを踏まえて準備していきたい。</p> <p>また、海外在住のアーティストの帰国スケジュールによっては、単独ライブやワークショップも企画する予定である。</p>

団体名	NGO 外反母趾研究会	事業名	子どもと大人の足の保健事業「子どもと大人の足の健康教室」
-----	-------------	-----	------------------------------

実施内容	実施結果
------	------

医科大学講師による「足の障害と予防方法」講演。医師、理学療法士(検査技師)による足の計測、足部検査(足底部、足指、脚部)、身体バランス検査(足裏フットプリント、片脚立ち)、義肢装具士による靴の検査(靴底の擦り減り、靴の変形、靴の形状と足の形状の符合)、検査データ作成、足の計測カード配布。医師と理学療法士による検査結果と対策説明。足部検査、身体バランス検査の検査員4名、靴、足部検査撮影カメラマン1名。誘導、受付スタッフ5名、講師1名。実施日:2024年7月14日(日)、9月15日(日)、12月8日(日)、2025年2月23日(日)の4回。午前の部9時30分~12時、午後の部1時30分~4時、場所:かわさき平和館、募集人員:各25名。参加費:一人1,500円(参加費1,000円、検査結果資料、足計測検査カード含500円)

参加者募集人員100名に対し、104名(幼稚園5名、小学生68名。中学生6名、保護者17名、高齢者人8名)が参加。医科大学講師による「足の障害と予防方法」スライドによる講演約10分程度実施。医師、理学療法士、検査技師による検査で、靴の適合性で、計測足サイズより靴サイズが1cm以上大きい81%であった。足幅のJIS規格での(足長、足幅、足囲)を計測した結果、平均男児E、女児C、大人は2Eで、足の幅が細い傾向にあった。足指検査では、浮指78%、内反小趾69%(浮指と重なっている人含む)、外反母趾11%、巻き爪3%、脚部検査では、O脚傾向47%、X脚傾向28%、外反足21%、内反足2%。身体バランス検査では、10秒以上立てた19%。フットプリントでは、扁平足39%、後掲(踵重心)37%、ハイアーチ19%、正常足5%であった。アンケートの声:足サイズより靴が大きいとバランスが崩れる事が分かった。足の幅で靴を購入することは大切と思った。参加して大変良かった、良かった100%、また参加したい100%。

写真	課題と展望
----	-------



講師によるスライド講演



身体バランス検査・靴、足の検査、相談会(下)



課題として、参加者を応募順に、午前と午後に分けた結果、進行自体はスムーズに行ったが、参加者(保護者)から1日つぶれてしまうので、一度に実施してもらいたいとお声を頂いたので、今後は対応人員を増やす方向で準備を進めたいが、医療従事者の人数の確保が難しい状況がある。この問題を解決するため、人材育成事業である講習会の参加人数を増やす対策と、地域の社会貢献団体との協働イベントを企画し、この事業に理解を頂き、賛同頂ける方にボランティアとして参加を促して行きたい。

今後の展望として、昨年の活動(つながりマルシェ、ごえん楽市、高津フェス)で知り合った社会貢献団体のイベントにも参加し、協働ができる体制を築いて行きたい。また、中原区、高津区の区役所から、地域の「歩こう会」での講演依頼もあり、地域に根付いた活動を実施すること、また健康産業企業への協力で、活動資金を得るようになって行くことで、本事業の目的である「いつまでも健康で歩ける社会へ」の実現に向けた継続できるイベントとしたい。

団体名	かわさき民話を愛する会	事業名	次の百年に伝える川崎のむかし話
-----	-------------	-----	-----------------

実施内容

2024年9月16日 中原市民館にて以下の内容で実施しました。

〈視聴覚室での企画〉 11時～13時30分 紙芝居、昔話の語り、大型めくり絵などを二サイクルで上演、立ち見も出るほどの大盛況でした。

〈会議室での展示企画〉 終日、川崎の民話や昔話の貴重な本、写真、新聞記事、資料などを展示しました。さらに、地元の小学生が描いた「川崎の昔話の絵」を、100枚以上にわたって展示、圧巻の内容でした。

〈ホールでの企画〉 14時～17時 萩坂昇作品の上演(日舞扇乃会、川崎セブンスター)、ミニ講演は、渡辺賢二さん、その後パネルディスカッション、進行係は萩坂心一、パネラーは昇さんの長女(系子)と次女(直)、しろたにまもる、各自が萩坂昇の思い出を存分に語り、会場の参加者からも発言が相次ぎ、祝祭的な雰囲気になりました。

実施結果

実行委員・出演者を除いた参加者数は、計187人。内訳は、70代以上…67人、60代…37人、50代…43人、40代…21人、30代…8人、20代…5人、10代…28人。実行委員30名と出演者20名、計50名を加えると、230名以上の参加者があり、当初の目標を達成することができました。

アンケートの回収率は50%程度。感想やコメントを自由に記載する方式にしたところ、ほぼ全員の方が、「参加して良かった」「川崎に愛着がわいた」「川崎の昔話を読んでみたい」「萩坂昇さんが愛と平和の人だということがよくわかった」「会場全体が温かい雰囲気になり、ほっこりとした気持ちになった」など、圧倒的なご支持をいただきました。

写真



午前の紙芝居の上演



午後のパネルディスカッション

課題と展望

課題は、本会会員の高齢化です。若い後継者を育成しないと、いずれ消滅してしまうでしょう。但し、他の団体で「語り手の育成」が進んでいるので、本会は「つなぎ役」としての役割を果たせそうです。

今回の一大イベントを終え、役員の間では、二つの意見があります。一つは、以前のような講演会やフィールドワークに地道に取り組む。もう一つは、今回のような大きなイベントを開催し、若い人たちも含めて広く語り伝え、後継者を育てていく。できれば、両方をやっていきたいですが、少なくとも次年度以降に考えていることを列挙すると、

- ① 9/16本番当日のDVD作成、報告集の作成と配布
- ② 未実施地域の散策・フィールドワーク
- ③ 川崎の昔話に関する講演会
- ④ 川崎の昔話を題材にした演劇的表現の公演

上記以外にも取り組めることを探して、多くの人たちと協力して進めていくつもりです。

団体名	国際おしゃべりサロン宮前	事業名	国際おしゃべりサロン宮前
-----	--------------	-----	--------------

実施内容	実施結果
<ul style="list-style-type: none"> ・2024年4月～2025年3月毎月第1第3金曜日全21回 サロン開催 ・2025年3月14日「ファシリテートカアップ」研修 講師：フリーアナウンサー笹田 恵子氏 ・2025年3月「おしゃべりで開く世界の扉 Vol.2」発行 	<p>毎回20数名の参加者があり、リピーターは6割程度。アンケートでは9割の方が満足と回答いただけた。</p> <p>スタッフ4名と一般の方2名の参加。(定員10名) 具体的な問題解決方法を教えていただき、スキルアップにつながった。</p> <p>校正に手間取ったが年度内に発行できた。ゲストスピーカーの話に基づいた様々なトピックスを取り上げ、興味深い本になった。</p>

写真	課題と展望
   	<p>サロンで話をしてくれるゲストスピーカー探し難しい。現在協力して頂いている日本語クラスや日本語学校と連携を深めながら、新たな団体にもアプローチして幅広く募集していきたい。ホームページやSNSを通じて私達の活動を周知していくことが大切だと思うので、内容をより充実させたい。</p> <p>ゲストスピーカーとサロン参加者のどちらも、現在開催している平日の日中は仕事で来られないという声があるので、祝日にもできないか検討する。</p> <p>サロンの内容については、参加者に満足してもらえるよう、スタッフのスキルアップも引き続き図っていきたい。</p>

団体名	特定非営利活動法人 鹿島田・新川崎まちづくりの会	事業名	南武線開かずの踏切解消まちづくり事業
-----	--------------------------	-----	--------------------

実施内容

南武線開かずの踏切解消に向けて、行政や関係事業者に住民の声を届けます。
また、関係する沿線地域に最新情報を広くお知らせします。
年 2 回の文化行事・まちづくり講演会を開催することで、住民が顔を合わせて地域の将来を一緒に考える契機とし、問題解決のための取り組みに何らかの形で参画する人を増やします。

実施結果

まちづくり講演会に向けて NPO ニュースを 4 回発行し、配布枚数は合計 1 万 2 千枚でした。
6 月と 2 月に文化行事・まちづくり講演会を開催し、併せて 45 名の参加があり、参加者アンケート回収 40 通のうち 19 件の記述回答がありました。
9 月には南武線高架事業地権者を対象に地権者アンケートに取り組み、料金受取人払いの返信封筒付きで約 300 軒の地権者に配布し、31 通の返信がありました。
南武線高架事業を担当する川崎市建設緑政局とは 5 月と 11 月の 2 回、懇談会をもち、地権者と共に地域住民の声を届けました。
これらの取り組みを通じて賛助会員が 2 名増えました。

写真



課題と展望

身近なまちの課題をテーマにした講演会・文化行事を企画し、これまで関心の無かった人が何らかの形でまちづくりの活動に参画するようになる契機をつくります。
南武線開かずの踏切問題など地域の課題について地域・住民の声を行政や JR などの関係事業者へ届け、その結果をまた地域に戻す循環を繰り返すことで、住み続けられるまちづくりと一緒に進める連携を広げます。事業を展開するなかで参画者や会員を増やし、安定して自立運営できる財政基盤確立を目指します。2025 年 1 月 17 日には神奈川県から JR 南武線高架事業について事業認可がおりた事で開かずの踏切解消に向けて具体的に動き始めました。今後は地権者の「生活再建措置」を意識した取り組みが求められると認識しています。これらの取り組みを通じて賛助会員や会員を増やし、安定して自立運営できる財政基盤確立を目指します。